

大志を育む



平成 28 年 9 月 26 日
(教職員向け)
教育委員会だより
No. 7

発行：北広島市教育委員会

「小学校はゼロからのスタートでなく」・・・幼保小連携

北広島市教育委員会 学校教育課 特別支援教育アドバイザー 荒木 実千子

近年、全国の小学校で、入学したばかりの1年生が、先生の話听不懂・学校生活になじめない・授業が成立しないなど、いわゆる「小1プロブレム」と呼ばれる現象が問題になっています。これは、小学校入学の前後で、子どもの生活環境や学習環境が大きく変わることが原因とされています。

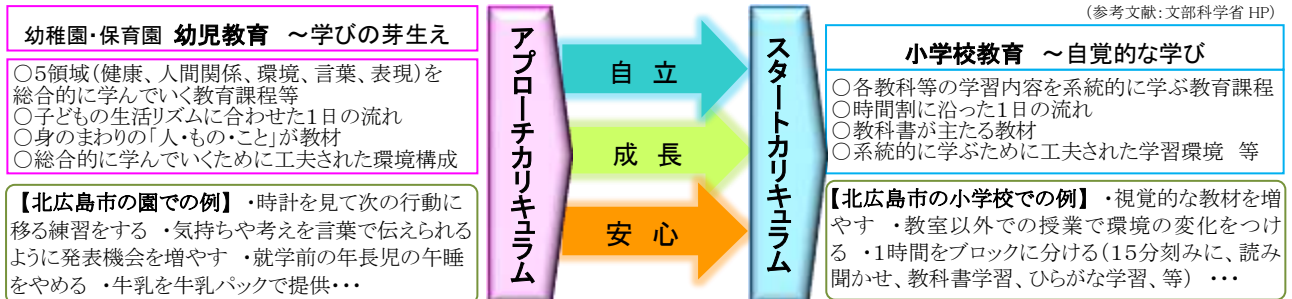
北広島市では、平成23年に「幼児教育の連携に関する懇話会」を立ち上げ、平成26年には「北広島市幼児教育連携アクションプラン」を策定し、小学校生活への円滑な移行のため、幼稚園・保育園・認定子ども園と小学校とが連携して取組を進めています。

①6月 幼保小連携入学後交流会 ②8月(または1月) 保育園参観研修 市内の小学校教諭全員が参観できるように継続中 ③12月
～希望があった園の年長児の保護者懇談会に、小学校教諭が出向いて小学校の生活について説明 ④1月 幼保小連携入学前交流会

北広島市の幼保小連携は、「互恵性」を大事にしています。入学前の様子を交流する1月の幼保小連携交流会に加えて、入学後の様子を交流する6月の交流会は、幼保からの要望で実現し継続しています。

このほかに、幼・保・小と市や市教委の担当者が集まり、幼保小連携の在り方について意見を交わす「幼児教育の連携に関する懇話会」が年3回開催され、幼保小連携の方向性や内容についての話し合いが行われています。これらの成果や課題をもとに、幼保小それぞれがカリキュラムの工夫をしています。

(参考文献:文部科学省HP)



幼児教育【遊びの中での学び】と小学校教育【各教科等の授業を通じた学習】が、接続を意識しながら交流を進めることで、互いの教育を理解し、円滑な移行を図ることができます。そのために、市の交流会に加えて、各小学校が近隣の幼稚園や保育園との連携を計画的に進めて行くことが大事になります。

大谷むつみ保育園

本園では、上記アプローチカリキュラムの他、保育園という性質上、生活リズムや家庭連携を重視しています。日課では、食事時間を小学校に合わせ、2月からはお昼寝をしないで過ごしています。また、保護者には保育園と学校の役割の違いを説明し、家庭でのサポートを具体的にお願ひしています。小学校との交流は「学びの芽生え」である幼児期から児童期の「学び」への接続を考えることができ、大変良い機会になっています。

幼保小連携入学後交流会

6/17(金) 午後3時～ 夢プラザ

市内全小学校の1年生担任等と市内幼稚園・保育園の卒園児担当者が、新1年生の様子を交流しました(交流満足度93%)。多くの気づきが子どもたちに還元されていくことと思います。この交流に加えて、独自に、近隣の幼・保と連携を進める小学校も増えつつあります。



北の台小学校

本校は、①市主催の幼保小連携交流会(2回)、②幼保主催の年長児保護者懇談会の出席(2園)、③本校主催の幼保小交流会(2月)、④園訪問による就学予定児の参観(H27は13園を訪問)、等を通じて幼保の先生と交流しています。日常的にも必要に応じて連絡を取り合っており、「単発」「一方通行」に終わらない、年間を通じた継続的かつ互いの「顔の見える」交流をさせていただいています。得られた情報や支援ノウハウは大変役に立っています。

東部中学校の特色ある取組

☆学校教育目標☆
「夢を持ち たくましく」

東部中は今年度の重点教育目標（めざす生徒像）を「自分の思いや考えを、自信を持って表現する生徒の育成」～コミュニケーションの広がりや堅いチームワークの発揮～とし、特色ある教育活動に取り組んでいます

◆校風と伝統、夢や希望、自信と誇りが広がる学校

(1) 1日の生活リズムを形成させる朝読書

毎日8時15分からの10分間、各学級で朝読書に取り組んでいます。言語活動を支える基礎的な力を育むため図書館司書や図書委員会の活動と連携を図りながら読書に親しむ態度を育てる活動を推進しています。

(2) 「教えて考えさせる授業」展開とICT活用

研究主題「自ら考え、進んで表現できる生徒の育成」のもと、市川伸一氏の提唱する「教えて考えさせる授業」の実践、新たなICT教育環境の活用を通して、思考力・判断力を向上させ、わかる楽しさを実感させることで、他者との関わりの中で自分の思いや考えを進んで表現できる生徒の育成を目指しています。これまでの実践で、学習事項の定着や思考力・判断力、学ぶ意欲の向上など一定の成果を得ています。



(3) 感動と団結力が発揮される生徒会活動

・縦割り連合の志が発揮される体育祭

本校の体育祭は、学年学級集団と、学年を縦割りにし、先輩後輩の関係で組織する連合集団という二つの集団を組織し、生徒の自主的な活動を促しながら実施しています。競技種目は全校共通種目、学年種目、連合種目で構成され、学校全体の団結力が高まる取組として、本校の伝統となっており、保護者・地域にも浸透し、支持されています。

・花ホールの課題曲コンクールを含めた学校祭

本校の学校祭は日常の学習を総合的に発展させ、集団で文化的な活動を行い、創造性豊かな心を養うことをねらいとしています。「花ホール」での課題曲コンクールは素晴らしい環境の中で合唱を発表することで生徒の意欲的な取組を促し、表現活動の素晴らしさを体得できる良い機会となっています。



(4) 専門家による本物体験の学習

・・・和楽器の学習「箏」、ダンス、平和集会での戦争体験講話

学校支援地域本部との連携により地域の人材を積極的に活用することで、質の高い体験学習を行うことができ、生徒の意欲的な態度が見られます。

(5) 七夕など、日本の伝統行事を受け継ぐ活動

生徒会の文化委員会で日本の季節感や情緒に触れる機会を大切にする取組として、鯉のぼりや七夕飾りの設置を行っています。本校の良い伝統として、生徒だけでなく来校する保護者や地域の方にも好評を得ています。



◆小中一貫教育の取組・・・部活動見学会

小中連携の取組として、北の台小と東部小に案内を出して、本校の部活動を公開しています。今年は体育館改修工事のため、会場に小学校も借りての実施となりました。小6の児童の中学校生活への意欲付けを目的とし、毎年たくさんの児童に参加してもらっています。

～東部中教職員の教育信条～

協働 / 凡事徹底 / コミュニケーションとチームワーク / 認め励まし、ほめて伸ばす / 小中連携

これらを教職員の指導の姿勢を表す「めざす教師像」のキーワードとして共通実践していきます。